

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

1. 明るく健康で、自らを高め、他人を尊重する、人間性豊かな人格の完成をめざす。
2. 工業教育を通じて、規範意識を身につけさせ、勤労と責任を重んじ、幅広い技術をそなえた社会人を育成する。
3. 北摂唯一の府立の工業高校として、「ものづくり」の技術と技能、知識によって将来の地域社会を担うことができる人材を育成する。
4. 府立の工科高校における高大連携重点型校として、大学等と連携した工業教育で、技術と理論を兼ね備えたエンジニアを育成する。

2 中期的目標

- 1 「確かな学力」の育成
 - (1) 新学習指導要領を踏まえ、基礎的・基本的な学力の定着をめざした授業改善に取り組む。
 - ア 少人数授業、授業評価、ICTの活用、研究授業等を通じて、より「わかりやすい授業」をめざして組織的に授業改善に取り組み、中退率改善を図る。
 - ※ 平成 25 年度入学生から導入した「学び直し」のための学校設定科目「工業入門」を発展、充実させ、基礎的・基本的な学力の定着をめざす。
 - ※ 生徒向け学校教育自己診断における「授業は分かりやすく楽しい」の肯定的な評価が3年後に10%以上増加するように取り組む（平成 25 年度 36%）。
 - ※ 3年後には、中退率5%未満をめざす。
- 2 安全安心で魅力ある学校づくり
 - (1) 生徒の規範意識を醸成し、規律ある学校生活を送らせるとともに、個々の生徒への支援体制を充実させる。
 - ア 挨拶、身だしなみ等、社会人として求められる礼儀を身につけさせるため、基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。
 - イ 教育相談体制を充実させるとともに、人権教育・支援教育を推進する組織の活性化を図る。
 - (2) 生徒の健康管理・安全衛生の意識を高めるとともに、事故のない安全な学校づくりに取り組む。
 - ア 生徒保健委員会を活用し、校内美化の取組みを推進する。
 - (3) 生徒会活動、部活動を通じて生徒の自己有用感を醸成するとともに、集団や学校への帰属意識を高める。
 - ア 行事、生徒会活動、部活動の活性化を図り、生徒自らが課題意識をもって学校生活を送れるよう支援する。
 - ※ 学校管理下での事故、特に「実習中の事故ゼロ」を継続する。
 - ※ 部活動の加入率を3年後には55%に高める（平成 25 年度 45.4%）。
 - ※ 3年後には、生徒向け学校教育自己診断における「生徒会活動に関心を持って参加し協力している」の肯定的な評価が10%以上増加するように取り組む（平成 25 年度 27%）。
- 3 自立・自己実現の支援（～工科高校の理念である「専門分野の深化」と「高等教育機関への接続」の推進～）
 - (1) キャリア教育・職業体験教育の充実に努める。
 - ア 「インターンシップ」等の体験的学習を重要な教育活動として位置づけ取り組む。
 - (2) 資格取得指導等を通じて、生徒に達成感、成就感を醸成し、進路実現への意欲を高める。
 - ア 資格取得や就職試験に向けた全学的な協力体制を推進する。
 - (3) 理工学系大学等の高等教育機関への進学を希望する生徒等の支援を強化し、ものづくりマインドを持った将来の高度技術者の育成をめざす。
 - ア 平成 26 年度開設の工学系・大学進学専科からの理工学系大学進学率100%をめざす。
 - (4) 「校長マネジメント推進事業中期計画推進費」における推進校としての取組みを通じて、幅広い知識と技術を備えたものづくり人材の育成を図る。
 - ア 小型人工衛星（CUBE-SAT）の打ち上げに参画することを目標に、関係諸機関との連携を図りながら、生徒に技術・技能を学ばせる。
 - ※ インターンシップの参加者数の目標を50人とする（平成 25 年度 17人）。
- 4 地域連携・地域貢献の取組みの推進
 - (1) 生徒支援のための中高連携を推進し、中高連絡会と学校訪問の充実に努める。
 - ア 生徒・保護者向けの学校説明会等に加え、中学校教員向け等の施設見学会等を実施し、定着させることより、中学生、保護者、教員等の工科高校への理解を促し、志願者増加につなげる。
 - (2) 「ものづくり」による地域貢献活動を、発展的拡大して実施することにより、生徒に自尊感情・自己有用感を醸成する。
 - ア 課題研究の取組みを3つの系の連携も図りながら、さらに充実させ、地域貢献活動の発展的拡大につなげる。
 - ※ 中学校訪問数100校、就職内定率100%を継続する。
 - 生徒向け学校教育自己診断における「授業や部活を通して、地域の人とかかわる機会が多い」の項目の肯定的な評価が3年後に10%以上増加するよう取組みを進める。（平成 25 年度 28%）。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 1 月 28 日 実施分]	学校協議会からの意見
<p>○生徒のアンケートから、「工業高校の特色」に理解を示していることがわかる。一方で課外活動については、機会が少ないと感じている。</p> <p>○保護者のアンケートでは9割近くの保護者が「この学校に入学させてよかった」と答えており、学校は保護者の最大のニーズには応えている。</p> <p>○教員のアンケートからは、「授業を生徒のレベルに合わせようと努力している」ことがわかるが、生徒、保護者からは十分理解されているとは言えない。</p> <p>○平成 25 年度との比較では、生徒では「人権教育」、「教育相談」、「環境・国際・ボランティア」などの項目で向上した。一方で、生徒指導の強化の影響か、「入学してよかった」「学校生活についての先生の指導には納得できる」などの項目が下降した。保護者では「学校の施設・設備、授業参観の機会」についての項目が向上した。教員では「個人情報の管理」、「教育方針を保護者にわかりやすく伝えている」などの項目は大きく向上している。一方で「保護者の願いに答えている」、「問題行動に対する組織的な対応」などの項目が下降した。</p> <p>○生徒、保護者について、学校のさまざまな教育活動に対する満足度は、トータルで見て、あまり変化はないと考えている。</p>	<p>第1回(6月13日)</p> <p>○生活指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導主事の報告は、身だしなみ指導をはじめとして、生徒の規範意識向上のため学校全体で努力されているのがよくわかった。今後とも継続して強い指導を期待する。 <p>○工学系大学進学専科について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度からスタートした教育課程の中では「大学連携」という学校設定科目を取り入れていることが目を引く。生徒の希望する進路実現につながる授業にして欲しい。 <p>第2回(10月25日)</p> <p>○生活指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・粘り強い指導の結果、遅刻者数が減少している。今後も継続して取り組んでもらいたい。 <p>○授業公開について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学では、各教員にリフレクションペーパー（授業改善報告書）等を提出させるなどの工夫を行っている。 <p>○授業アンケートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果をもとに、教員それぞれに改善すべきところを把握してもらいたい。 <p>第3回(3月3日)</p> <p>○第2種電気工事について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合格者が昨年度に比べ大幅に増加した。教員体制等充実した指導が窺える。今後も多数の合格者数を維持してもらいたい。 <p>○工学系大学進学専科について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・志願者数が募集人員を大きく下回っている。「大学連携」など特色ある授業を展開されており、生徒のアンケートも良好である。中学校へのPR活動をさらに進め、志願者確保に努めて欲しい。

府立茨木工科高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 「確かな学力」の育成	(1) 基礎的・基本的な学力の定着をめざした授業改善の取組み ア 少人数授業・研究授業等の取組み イ 中退率改善をめざす取組み ウ 「学び直し」を活用した基礎・基本的な学力の定着をめざす取組み エ 授業公開の取組み (2) 工学系・大学進学専科における取組み ア 理工学系大学等で高度な知識、技術を学ぶための確かな学力をつける取組み	(1) ア 加配等を活用し、1年生の数学、英語で1クラス2展開授業、習熟度別授業を実施するほか、専門の実習教科だけでなくできる限り多くの教科でTTを実施する。 イ 生徒のニーズや実態を把握するために、新入生を対象にしたアンケート、退・転学者向けのアンケートに加え、教育産業の支援を受けて基礎力診断テストを実施することにより多角的な分析を行い、中退率の改善に活用する。 ウ 生徒のニーズ・取組み状況等を把握し、教材、授業方法等に修正を加えながら取り組む。 エ 自主的な授業公開を6月及び11月に実施し、若手教員とベテラン教員相互の授業力の向上を図る。 (2) ア 大学の理工学部系での学びを意識し、基礎から応用に発展する数学、理科、英語の授業の充実を図るとともに、土曜講習や長期休業中の講習を実施する。	(1) ア 生徒アンケートによる満足度80% (平成25年度70%)。 イ 中退率を3%改善 (平成25年度9.9%)。 ウ 数学基礎診断テストの2回目の成績7ポイント以上上昇 (平成25年度5.1ポイント)。 エ 授業公開数延べ50以上 (平成25年度20)。 (2) ア 教育産業の基礎力診断テストにおける学習到達ゾーンの上昇。	(1) ア 生徒アンケートによる満足度は75%。(○) イ 中退率は6.3%、3.6%改善した。(◎) ウ 2.5ポイント下降。(△) エ 6月実施15回、10月以降11回、初任者研修、パッケージ研修、フォローアップ研修を活用して4回、計30回実施した。(△) (2) ア 第1学年では上昇者117人、下降者77人で全体として上昇した。第2学年では上昇者84人、下降者53人。(○)
2. 安全安心で魅力ある学校づくり	(1) 規範意識を身につけさせ、個々の生徒への支援体制を充実させる取組み ア 遅刻数削減の取組み イ 教育相談体制の充実 (2) 生徒の健康管理・安全衛生の意識を高める取組み ア 生徒保健委員会の活用 (3) 生徒会活動、部活動を通じた生徒の自己有用感、帰属意識の醸成 ア 行事、生徒会活動、部活動の活性化	(1) ア ・遅刻ゼロの日、学校生活見直し週間、登下校指導の強化等、生徒の意識を喚起する取組みを推進する。 ・「遅刻指導」の改善を図り、遅刻数のさらなる削減をめざす。 ・身だしなみ、携帯電話に係る指導の改善を図り、より一層規律ある学校生活を送らせる。 イ スクールカウンセラー、支援教育コーディネータ等の活用を通じて、個に応じた支援を充実させる。 (2) ア 行事後、考査前の大清掃に徹底して取り組み、校内美化を推進する。 (3) ア ・生徒会主催の校外清掃活動を定着させる。 ・生徒会とPTAの連携によって花づくりを企画し、美しい学校づくりをめざす。 ・部活動を活性化し、生徒の加入率の向上に努めるとともに、施設設備の充実に取り組む。	(1) ア 遅刻数前年度比20%削減 (平成25年度13.3%)。 イ 学校教育自己診断の教育相談関連の肯定的回答の5%増加 (平成25年度40%)。 (2) ア 保健安全指導部による清掃点検における○(良好)の増加。 (3) ア ・参加生徒数の10%増加。 ・企画立案及び1回以上の実施。 ・加入率50% (平成25年度45.4%)。	(1) ア 昨年度比15.2%削減。(△) イ 学校教育自己診断の教育相談関連の肯定的回答は43%で概ね目標を達成している。(○) (2) ア 12月末現在、清掃点検における○(良好)の割合は84.25%である。月を経るごとに良好割合が増加している。(◎) (3) ア ・参加生徒数は平成25年度207名、平成26年度222名で、7.2%増加し、概ね目標を達成した。(○) ・部活動加入率は54%で増加した。(◎)
3. 自立・自己実現の支援	(1) キャリア教育・職業体験教育の充実 ア インターンシップ等への取組み (2) 資格取得を通じた生徒の達成感・成就感の醸成、進路実現意欲の向上 ア 資格取得や就職試験に向けた全学的な協力体制の推進 (3) 高等教育機関への進学希望生徒の支援 ア 工学系・大学進学専科における取組み (4) 「校長マネジメント推進事業中期計画推進費」における推進校としての取組み ア 小型人工衛星製作への取組み	(1) ア ・地域産業との連携を深め、受け入れ先企業の安定した確保に努める。 ・インターンシップを体験した生徒の成果発表会を企画し、参加生徒の増加につなげる。 (2) ア ・授業はもとより早朝、放課後の時間帯を活用し、生徒の資格取得を支援する。 ・就職試験のための個々に応じた面接指導の取組みを充実させる。 ・教育産業の支援を受け、本人の適性をより客観的に把握することにより、就職におけるミスマッチを防止する。 (3) ア (学)「大学連携」において、大学の施設等の見学、研究者の講話等を聞くことにより、高度技術者をめざす高い視座と大きな志を持たせる。 (4) ア 小型人工衛星の打ち上げに参画するための基礎技術を学ばせるため、JAXA、和歌山大学、全国工業高等学校長協会と連携しながら、クラブ活動、課題研究等を活用して、缶サット(模擬人工衛星)、ハイブリッドロケット、小型人工衛星の筐体等を製作する。	(1) ア 参加生徒50名 (平成25年度17名)。 (2) ア ・電気系2年生の第二種電気工事士合格率70%。(平成25年度38%)。その他の資格取得、特に危険物取扱者乙種、旋盤技能検定3級の合格者数の増加。 ・第1次就職試験合格率65%以上。 (3) ア 3校以上の大学見学等実施。 (4) ア 缶サット甲子園全国大会への出場。	(1) ア ・12企業・団体に25名が参加した。(△) (2) ア ・2年生の第二種電気工事士の合格率90.8%。(◎) 危険物取扱者乙種合格者数は54。昨年比21増(◎) 旋盤技能検定3級の合格者数2。(○) ・第1次就職試験合格率71.3%。3月31日現在、161人の就職希望のうち、内定者は160人で、内定率は99.4%である。(○) (3) ア 大阪工業大学3回、大阪電気通信大学1回、2校4回の大学見学を実施した。関西大学1回、大阪電気通信大学1回、2校2回の大学教授による出前授業を実施した。(◎) (4) ア 8月、缶サット甲子園全国大会(秋田県)に出場した。サイエンスフェスタや大阪府産業教育フェアなどのイベントに参加してPR活動も行った。また、全国工業高等学校長協会の人工衛星打ち上げプロジェクトで小型人工衛星の電源周辺部の製作担当校になった。(◎)
4. 地域連携・地域貢献の取組みの推進	(1) 中高連携の推進 ア 中学校の生徒、保護者、教員の工科高校への理解を促す取組み (2) 「ものづくり」による地域貢献活動の取組み ア 課題研究充実への取組み	(1) ア ・中学校教員向けの施設見学会等を実施する。 ・3つの系の連携を深め、地域の小中学校に働きかけ、出前授業を積極的に行う。 ・昨年度全面改定した実習体験・オープンスクール・学校説明会について、反省点を踏まえ、より一層円滑に実施する。 (2) ア ・アルミ製朝礼台等の製作・寄贈、茨木市イルミネーション事業への参画等の「従来のものづくり」による地域貢献活動を一層推進する。 ・関西サイクルスポーツセンターの「夢の自転車開発研究事業」に応募し、「夢の自転車づくり」を行う。 ・課題研究発表会を地域等に公開する等の新たな取組みを検討する。	(1) ア ・参加者数10名以上。 ・5校以上の出前授業実施。 ・参加者数・アンケートによる満足度の増加。 (2) ア ・新たな作品の製作。 ・“夢の自転車”の製作、完成。 ・課題研究発表会の公開。	(1) ア ・参加者数11名。(○) ・出前授業実施5校。(○) ・アンケートの満足度は約80%前後で昨年度とほぼ同じ水準となった。(○) (2) ア ・アルミ製朝礼台を3台製作し、地域の小中学校に寄贈。また、いばらき光の回廊のイルミネーション機材の製作・設置を行い地域に貢献した。(○) ・2台の“夢の自転車”を製作した。(○) ・校内での発表会にとどまり、公開に至っていない。次年度に実施することを予定している。(△)